

2016年 7月4日(月) 13:00~14:30 本部棟201号室

理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤研究センター  
清成 寛

## 「実験動物としてのマウス」

実験動物としてのマウスは、遺伝学、発生学、神経科学、行動学、ゲノム科学、薬学、医学など、様々な分野で研究に用いられています。これは、マウスがヒトのモデル動物として非常に有用とされているからです。飼育や繁殖の容易さ、妊娠期間が短く、多産である事などがその大きな理由です。では、マウスはいつどのようにして実験動物としての地位を確立してきたのでしょうか。本講義では、かつては忌み嫌われ、後に愛玩動物として親しまれるマウスが、実験動物として確立されるまでの歴史を紹介すると共に、マウスを使った研究、特に遺伝子改変マウスの誕生から最新の作製技術に至るまでをご紹介します。



発生・再生科学の最先端を‘わかりやすく’解説していただきます。3回生向けの講義ですが、他の学部生、大学院生、教員、その他の方々の参加もお待ちしています。

世話人：八田公平